

京都シェアワセ運ぶ情報誌の 福祉

570
2018年
5月

Contents

- 平成30年度 京都府社会福祉協議会
事業計画・予算
- 障害のある人を主役にした
新しいファッション誌が京都で創刊

きょうとこども食堂フェスティバルを開催

夢中！熱中！ふくしびと



もてんぐさ

厳しい冬を経つ
も早めの開花で花

吹雪が舞う中、今年も多くの人の門出に立ち会うことができた▼府社協も「第4次中期計画（5か年）」の折り返しとなる新年度のスタートを切った。支援を必要とする人を制度の隙間で見逃さず、手を差し伸べることができる地域づくりを進めたい▼今、「地域共生社会」が声高にいわれるが、元来、社協は福祉に関わる人をはじめ、地域の全ての人を巻き込み、繋ぎ紡ぐ役割を担ってきた。…はずであるが、地域のコミュニティが希薄化し福祉力が低下していく中、歯がゆい思いで一生懸命の防戦で凌いできた感がある▼新年度の事業計画は中期計画に掲げる事業展開の柱に沿って、事業の充実や強化を図っており、社会情勢の動きにスピード感を持って対応できるよう、既成概念に囚われずに新しい試みにどんなに挑戦し、成果を発信して行きたい▼まだ遅くはない。創意と工夫でやれることは沢山ある。そのためには、府社協の全てのステークホルダー（関係者）と向き合い、関わりに応じて働きかけていく必要がある。例えば、改正社会福祉法の施行から1年が経過するが、府内約500の社会福祉法人のモデルとなるようなガバナンス（組織、統治機能等）を築いていくなど▼改めて社会福祉分野でのリードオファマンであることを自認し、組織基盤の強化を進めながら、今年度を府社協の真価が問われる正念場としたい。(M.Y.)